

1) 帯状疱疹に対する中医学の弁証

1 肝経火毒: 頭部、顔面、胸脇によく発生する。せっかち、怒りっぽい、のどの渴き、舌質紅・舌苔黄、脈弦数。

2 脾経湿熱: 腹部、大腿部によく発生する。上腹部の痞悶、食欲不振、嘔吐、小便黄赤色、泥状便、体が重くだるい、舌質紅・舌苔膩、脈濡数

3 気滞血瘀: 年寄りが多い。舌質暗紫・瘀斑あり、疱疹がなくなっても痛みが残る。顔色や唇に艶がない、脈が細弱で無力である。

2) 帯状疱疹に対する中医学の論治

1 目的: 祛邪解毒、活絡止痛

2 選穴: 患部を避けて周辺の近接する経穴と患部に走行する経脈の経穴を選ぶ

基本穴: 全て瀉法

○頭部・顔面: 合谷(大腸経)、内庭(胃経)。

○胸脇: 内関(心包経)、陽陵泉(胆経)

○大腿内側: 三陰交(脾経)

証による選穴:

○肝経火毒: 太衝に瀉法を数分間施し、抜鍼後、大敦と足竅陰に点刺して出血させる

○脾経湿熱: 脾兪に補法を、陰陵泉に瀉法を数分間施し、抜鍼後、隠白に点刺して出血させる

○気滞血瘀: 太衝、血海、膈兪に瀉法を施し、20分間置鍼しながら、間欠的に行鍼する。気血が不足している場合は、更に足三里、三陰交を加えて補法を施し、20分間置鍼して間欠的に行鍼する

患部に走行する経絡による選穴:

○顔面: 手の陽明大腸経(合谷)、足の陽明胃経(足三里、内庭)。

○胸脇: 手の厥陰心包(内関)。

○肋間: 足の少陽経(陽陵泉、足竅陰)。

○大腿内側: 足の太陰脾経(三陰交、隠白)、足の厥陰肝経(血海、太衝、大敦)。